

## 第1回 安中市都市計画マスタープラン策定委員会 議事概要

### ■日時及び場所

日時：令和5年7月26日（火）14:00～16:00

場所：安中市役所 新庁舎3階 委員会室

### ■出席者

区分	出欠	所属等	氏名(敬称略)	備考
委員長	○	高崎経済大学地域政策学部	長野 博一	
委員	○	一般社団法人群馬建築士会安中支部代表	三好 建正	
委員	○	一般社団法人群馬県宅地建物取引業協会 安中支部代表	武井 正臣	
委員	×	一般社団法人安中市医師会代表	本多 真	
委員	○	一般社団法人安中市観光機構代表	武井 宏	
委員	×	碓氷川森林組合代表	上原 又樹	
委員	○	安中市商工会代表	静 朋人	議事録署名人
委員	○	安中市松井田商工会代表	吉田 利博	
委員	○	安中市区長会代表（旧安中）	森 明男	議事録署名人
委員	○	安中市区長会代表（旧松井田）	佐藤 金光	
委員	○	東日本旅客鉄道株式会社高崎支社代表	近藤 隆俊	
委員	○	一般社団法人群馬県バス協会代表	佐藤 俊也	
委員	○	一般社団法人群馬県タクシー協会代表	清水 憲明	
委員	○	ぐんま地域防災アドバイザー	金井 弘恵	
委員	○	安中市民生委員児童委員協議会代表	佐藤 徹也	
委員	×	安中市景観審議会代表	杉浦 榮	
委員	○	安中市文化財保護審議会代表	中島 啓治	
委員	○	安中市農業委員会代表	山田 茂	
委員	×	国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所計画課長	堀井 智典	
委員	○	群馬県県土整備部都市計画課長	剣持 康彦	
委員	○	群馬県県土整備部安中土木事務所次長	岸 正幸	
事務局	○	まちづくり部	都市計画課	
NKUS	○	都市再生部	都市交通課	

## ■次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 出席者紹介
5. 委員長及び副委員長選出
6. 委員長挨拶
7. 議題
  - (1) 安中市都市計画マスタープラン策定委員会運営規則（案）の承認について
  - (2) 安中市都市計画マスタープランの改定について
  - (3) 安中市都市計画マスタープラン全体スケジュール（案）について
  - (4) 安中市の現状と市民意向調査結果について
8. その他
9. 閉会

## ■配布資料

- 座席表、次第、委員名簿
- 安中市都市計画マスタープラン策定委員会条例
- 安中市都市計画マスタープラン策定委員会運営規則（案）
- 立地適正計画事業に関する資料
- 現行のマスタープラン
- 資料1\_都市計画マスタープラン改定について
- 資料2\_全体スケジュール（案）
- 参考資料1\_安中市の現状
- 参考資料2\_市民意向調査調査票
- 参考資料3\_事業所アンケート調査票

## 1. 開会

## 2. 委嘱状交付

## 3. 市長挨拶

(市長)

- ・この都市計画マスタープランはこれからの安中市の10年後20年後に大きく関わる大事なマスタープランとなる
- ・現在H27に策定したもの。安中市内の情勢を見たときに、人口減少等々、様々な課題がある。
- ・西毛広域幹線道路はR11年度に全線開通することも県の方で進めている。
- ・新線の沿線、交差部に新しいまちづくりをしていきたい方向性。
- ・新しいまちづくりを踏まえたくて新駅を設置しようとする構想がある。
- ・安中全体が活性化するかどうか、この都市計画マスタープランの策定にかかっているといっても過言ではない。
- ・人口減少時代をむかえコンパクトな街にしていかなければならない。
- ・立地適正化計画、交通弱者対策として地域公共交通計画の策定も同時に進めているところ。

## 4. 出席者紹介

各委員紹介・あいさつ

事務局・コンサルあいさつ)

## 5. 委員長及び副委員長選出

委員長：長野博一

副委員長：杉浦榮（本日欠席⇒後日事務局より確認）

## 6. 委員長挨拶

(委員長)

- ・高崎経済大学、専門が都市計画および交通街づくり
- ・高崎に関わらず群馬県内の様々な自治体の都市計画に関する研究を進めている
- ・都市計画マスタープランは、向こう20年程度先を見据えた都市計画に関する基本的な枠組みと考え方を作り、まちの方向性を決めるプラン

## 7. 議題

### (1) 安中市都市計画マスタープラン策定委員会運営規則（案）の承認について

- ・運営規則の読み上げ、原案の通り決定。
- ・議事録署名委員指名 静朋人委員、森明男委員

### (2) 安中市都市計画マスタープランの改定について

(委員)

- ・現在の都市計画道路はどのようになっているか？

(大野課長)

- ・ 現在、延長ベースで 1/3 が未着手の状態、残り 2/3 は事業化ないし整備済。
- ・ 未着手のものについては来年度から都市計画道路の見直し事業を行う。
- ・ 来年度、再来年度の 2 年で策定をする予定。それに基づき都市計画の変更等が必要になった際はその後で変更手続き等を行っていく。

(委員)

- ・ 市民向けアンケート調査の問 13 の選択肢について、碓氷峠鉄道文化遺産、碓氷峠交流記念財団構成施設の今後の運営、活性化に関するものがない。これらの施設の所有者は安中市であり、安中市観光機構も地域 DMO として政府の支援を活用しながら観光誘客の要として、再生、拡大を図ってきている。
- ・ 選択肢にないために、市民意向調査結果 P44、2.4 について、碓氷峠鉄道文化遺産、碓氷峠交流記念財団構成施設が重点施策として数値データを伴った結果が今回の調査にあがっていない。
- ・ 安中市都市計画マスタープラン改定についての P9、2.3 将来都市構造図には、横川エリアが定められており、安中市都市計画マスタープラン改定についての P18 の 3 改定の背景、3.2 上位・関連計画にも安中市に位置づけられている拠点、観光拠点に、多彩な自然環境や景観など、県内外から集客が見込めるような観光資源を有し、周辺の観光地との連携により、一体となった観光誘客の拠点となる地区との表記があり、上記の位置づけから、碓氷峠鉄道文化遺産、碓氷峠交流記念財団構成施設は市長が公約に掲げる年間観光入込客数が例年 800 万人を超える隣の軽井沢との連携について重要な観光誘客の核になる、安中市の大きな地域資源と考える。
- ・ 市民アンケート、道の駅の整備、碓氷峠鉄道文化遺産、碓氷峠交流記念財団構成施設が政府が安中市に期待するインバウンド誘客資源として有効に連動できると思うので、碓氷峠鉄道文化遺産、碓氷峠交流記念財団構成施設の活性化も改定項目、観光拠点の整備計画に入れていただき、安中市観光機構と官民一体での軽井沢町や JR 東日本高崎支社と連携したインバウンド観光誘客の施設に取り組むことを提案させていただきたいと思う。

(事務局)

- ・ アンケートの設問については最近の新しいトピックを優先して作成したもので、碓氷峠鉄道文化遺産等の事業については以前から取り組んでいるため選択肢から除いた。
- ・ 現行のマスタープラン P152、P153、地域別整備構想図にあるように、碓氷峠や横川駅周辺についてないがしろにしているわけではなく、しっかりと位置付けていきたい。
- ・ 観光課とも連携し、しっかり記載していきたい。

(委員長)

- ・ 都市計画マスタープランは、他の自治体でもそうだが地区別にいろんな構想を考えていくものが多い。
- ・ いろんな関連する計画が沢山あり、その中でチョイスをしていく分野、接続させる分野、近い関係性を築かないといけないものがあつたりと、いろんな検討材料がでてくるので、その辺も含め現行の計画によく目に通してもらいたい。
- ・ 委員の皆さんの耳に入ってくる情報（住民の意見、困りごと）も、共有していきたい。

(委員)

- ・都市計画の中で道路または工業地域はあるが、住宅系が安中市にはない。
- ・住宅系の計画エリアなど、人口減少を抑えるという意味でも住宅地を作るのもひとつのアイデアだし、住居の確保についても盛り込んでほしい。

(事務局)

- ・住宅は土地利用という形で P62 に土地利用方針が書かれており、例えば低層住宅地の方針など建物の分野別に書かれている。また、P67 に市街地整備の方針が書かれている。今回も同じような構成になると思われる。
- ・委員の意見を踏まえた住宅市街地の整備についても検討していきたい。
- ・土地区画整備事業で事業化がされていない安中南地区についての区画整備区域についても今年度から見直ししている。
- ・土地開発公社による住宅団地の造成についても位置付けられるようだったら記載していきたい。

(委員長)

- ・土地計画は、土地利用計画、施設計画、開発事業の 3 点セットで進めるもの。
- ・土地利用計画は用途地域によって建物の質・大きさが定められている。地域の指定の仕方により市街地をどう誘導していくかという話に直結する。
- ・どういった形で市街地の適正化を目指していくか、また現行マスタープランの P62 低未利用地などの有効利用が図られていない土地をどのような論点で使い方を考えていくかについてもこれからの課題になってくる。

### (3) 安中市都市計画マスタープラン全体スケジュール (案) について

意見なし

### (4) 安中市の現状と市民意向調査結果について

(委員)

- ・P38 の土地利用について、沿道まちづくりは具体的にはどうゆうことか。

(事務局)

- ・ロードサイド店をイメージしていただくような形になると思うが、例えばバイパスができて、バイパス道路の両側に小売店ができてといったものをイメージ。
- ・質問内容は幹線道路沿い、つまり国道 18 号や西毛広域幹線道路になってくると思うが、そういったところの両側にお店が立ち並ぶような、例えばスーパーやホームセンター、ドラッグストアができるようなところ。

(委員)

- ・それは市民が望むことであって、あえてまちづくりにするのは？

(事務局)

- ・安中市もいろいろな場所があり（閑静なところ、賑やかなところ、鉄道沿線、インターチェンジ）、都市計画はそういったところをエリアでそれぞれの地区にあったまちづくりを行うのが基本。

- ・沿道まちづくりですと、新しい道路ができて、例えば大きいお店ができて、今までの商店街がなくなるなど、メリットデメリットがでてくる。そういったところをいろんな観点から検討していき、それぞれの地区にあったまちづくりをしていく。
- ・沿道まちづくりについても、市の方で誘導しなかった場合は民間主導で建物が建ってしまうが、都市計画の用途地域を設けることで建物の種類を制限することができ、住みよいまちに誘導していく。

(委員長)

- ・都市計画でコントロールできる範疇の中に、沿道の中で開発に規制をかけるということもできるので、うまくマスタープランの中で、ここはちょっと開発から外したいとか誘導したいものが出てきた場合にいろんな検討ができる。
- ・一方で、アンケートから車社会になってきているのを見て取れるので、なるべく公共交通に誘導していく流れが必要、そのためには、乗りやすい、行きやすいなど駅施設周辺のまちづくりがどのように誘導していくか課題になってくる。

(委員)

- ・今後の展開は？たとえば公共交通に対する不満、利便性に対する不満など、地区別の集計や地区別の傾向などわかってくると、最終的なマスタープランのアウトプットに展開するのに地域性がでてきて、市民ニーズに合致できるのでは。
- ・アンケートで今後地域別でニーズで掘り下げていくことが可能なのか。
- ・高崎への移住者について、43%の方が高崎に移住したいという意向があった中で、なぜ高崎市に移住したいのかという理由が掘り下げることが可能なアンケートになっているのか？

(事務局)

- ・地域別の回答分析はできる。次回示す予定。
- ・高崎市の移住の理由については、今回はできない。

(委員長)

- ・今後の他の調査の中で関連付けて聞くこともできると思う。さきざきの調査の中でわかると思います。

(委員)

- ・アンケートは今の思いなので、これから世の中が変わっていった時の行政側のサービスはどのようになるべきなのか。将来にむけてどのようなまちが住みやすいのか、今の現状でひとりひとりの不満を聞いてると難しいのではないかな？
- ・以前、公共バス利用について、現状把握するためのアンケートを取ったとき、安中駅にバスがついたときに電車がいない、電車がついたときにバスがいない、高齢者はほとんど昼間は病院通いなのにバスがバイパスを通っているとか、誰のための公共バスなのか、そうゆう矛盾が時代とともに惰性で流されていて改善できないという経験をした。そのときはフリー乗降にし、旧道を通すことで道を広げようとするまちの運動も起こった。それはそのとき。その後高齢者が減り、乗客もいなくなってしまったということがあった。
- ・現状把握はいいのだが将来に向けての理想を加味したマスタープランを考えていったほうがいいのか、それとも現状の人のアンケートの結果を踏まえたものでいいのか？

- ・新潟では100年先のカレンダーをもとに作っている。100年先はどうあるべきかを理想としている。
- ・安中市の将来を見据えたときにどうなのか、工業団地、働くためには必要と思う。藤岡は工業団地ができ、働く場所が増えていく。
- ・将来を考えた意見がいいのか、現状の不満をぶつけて課題するだけでいいのか？

(委員長)

- ・本来、都市は100年150年スパンで考えていくもの。
- ・都市計画マスタープランは20年30年のスパンを積み重ねていくもの。前段として100年150年先どうなるべきなのかは、もう少し大きな計画でビジョンをもっと持った方がいい。
- ・それに基づいて向こう20年間ではこのような姿に変えていきたいというのがあって、そのためには現状分析は絶対必要、将来の予測、さらにその先を見据えたものを並べた状態で考えるのが一般的と思う。
- ・ただ難しいのは人の意見や気持ちは変わっていくし、都市と一緒に人間も生きているので、計画は随時変更してゆくもの。そこに実行を持たせるためのプランをどう組んでいくか、都市計画マスタープランに紐づく計画であったり、都市計画マスタープランを実行に移すためのアクションプログラムとか、そういったものに動いてくると、今の課題と将来予測がマッチするところが見えてくる。
- ・ひとまずは、現状分析するためのアンケートはやるべき。
- ・一方で先々の需要を予測して、それに基づいて、どんな打ち手が必要なのか踏まえることも大事。
- ・それを、この委員会の中で議論できればよい。

## 8. その他

なし

## 9. 閉会